



「きらりと光るまちの人」
SMILE UP!

Vol.38

荒川 有三 さん

ARAKAWA YUZO

受け継がれてきた「日本の文化を守る技術」

Q 選定保存技術の保持者に認定された感想は？

A 祖父や父の仕事を幼いときから見ていたので、この技術が特別なものとは思っていませんでした。今回、この業界が取り上げられたことを嬉しく思う反面、この技術を後世に残していくという責任の重さを感じています。

Q やりがいを感じるのはどんなとき？

A 国宝や重要文化財建造物にある畳の修理に携わっており、今は京都にあるお寺の約 300 年前の畳を扱っています。他の仕事と同様、一つひとつ丁寧に作業し、完成後は運搬から設置まで自分たちで行います。国の歴史ある文化財の保全に少し貢献できているかなと思います。

Q 大変なところは？

A 畳は重く、低い姿勢で作業することも多いので腰や膝を痛めがちです。また、畳の修理は一枚に 1 週間～10 日かかることもあります。けれど昔の職人はもっと短期間で仕上がりの良い仕事をしていました。時代や扱う件数が異なることもあるでしょうし真似はできませんが、今も祖父と父を目標に仕事をしています。

Q これからの展望は？

A この技術の後継者をできれば全都道府県に一人ずつは残したいです。畳を扱う事業所や職人も減り、それぞれのやり方やこだわりもあるため、全国的に伝承していくことは難しいかもしれませんが、毎年開催している研修会には全国各地から若い職人が参加してくれています。私が受け継いできた技術を少しでも多くの職人に伝えていきたいです。畳は日本の文化です。これからも多くの人に大切にしてもらいたいです。

Profile・荒川製畳所(厚狭本町)の四代目。73 歳。厚狭高校卒業後、父の指導のもと手縫畳床の製作(※)に従事。今年度、文化財保護法に基づき「手縫畳床製作」選定保存技術の保持者として認定。県内在住の選定保存技術保持者の認定は 2 人目。

※畳の芯となる藁床を手縫いで作る。この技術を持つ職人は全国で数人と言われている。



▲認定を市長・教育長へ報告



▲藁床製作の様子

「みんなの笑顔」の写真を募集!



【応募方法】①写真(プリントしたものまたはデジタルデータ)②応募者の氏名(掲載はペンネームでも可)③作品名または 15 文字程度のコメント④応募者の連絡先(昼間連絡のとれる電話番号)

〒756-8601 山陽小野田市役所
 シティセールス課広報係(☎82-1148)



ペンネーム けいちゃん
 紙吹雪に喜ぶ少年 80 歳



ペンネーム マーブルくん
 元気の秘訣は食べること! 18 歳